

ネイチャーゲームを通じての国際交流

村上宜輝（阿波徳島ネイチャーゲームの会）

ネイチャーゲームの依頼

平成17年の5月、阿波徳島ネイチャーゲームの会（以下「地域の会」）に、徳島県青年海外協力協会からネイチャーゲームの依頼があった。ASEAN青年約30名が鷺敷青少年野外活動センターで一泊し、同じく約30名の徳島県内の青年と交流、互いの地域の教育事情を話し合うという行事である。そこで顔合わせ直後の2時間、ネイチャーゲームの時間をとるのでやってもらえないかという内容であった。

さっそく参加リーダーを募り、プログラムを組むこととした。鷺敷（現、那賀町）の自然を生かしつつ国際交流もやり、ネイチャーゲームの楽しさを体験してもらおうと考え、〈はじめまして〉と〈ノアの箱舟〉〈カモフラージュ〉の3つを候補にした。

打ち合せ

5月22日、主催者との事前打ち合わせに参加した。難題は当日の食事。東南アジアは文化的に宗教的に多様で、8カ国の青年が食べられる料理を用意するのが大変。また、気になっていた〈ノアの箱舟〉の“宗教性”についても、“お話し”としてやれば問題ないとの結論になった。しかし2時間で3アクティビティは忙しすぎることから、残念ながらこれは削ることとした。2班に分けて進行する予定で、通訳の方も付くとのことであった。

国際交流ネイチャーゲーム

6月4日朝、私を含め地域の会リーダー4人が集合。フィールドの安全確認をしたのち、2班に分かれ〈カモフラージュ〉の準備をした。

10時にいよいよ参加者の顔合わせと、約60名全員の自己紹介。フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイ、ミャンマー、ヴェトナム、カンボジア、ラオス、計8カ国の青年が集まった。職業は教師、国家公務員、学生など、教育に携わる人々ばかりであった。どんな思いで参加したか、意気込みなどを熱く語っていた。

昼食後、屋外でネイチャーゲーム開始。まずは全員で〈はじめまして〉。ASEAN青年はみな英語なら読めることから、質問事項を英文併記したカードを作成していたのだが、これが好評だった。また、会話の中で互いの文化的な違いが分かるのが楽しく、例えばこのような会話が続いた。

私「今まで何か生き物を育てたことがありますか？」

アムタさん（インドネシア）「鯉を飼ったことがあります」

私「森の中で動物に出会ったことはありますか？」

アヌアさん（マレーシア）「蛇にあいました」

などである。

さあ、わかちあいといった頃に雨が降り出し、一時中断して体育館へ。しかし雰囲気はとぎれることなく、次々に手が上がった。ウィウィックさん（インドネシア）は、自分が話したすべての相手とその答えを述べるので、長くなったもののその話しぶりが楽しげで、みな聞き入っていた。

次はカモフラージュができなくなったので、〈コウモリとガ〉に切り替え。簡単に説明をして、20人の3班に分かれて開始。バット役もモス役も、次々に希望者が出て、いつまでも続けたいとの感想も出た。みな汗をかきながら動き回り、大人ばかりでも大変に盛り上がった。

わかちあいでは、「コウモリの生態がよく分かった」との意見が上がった。単にゲームで終わらせたくなかったのも、ほっとした。

夕方はバーベキューと各国の民族衣装や踊りなどの文化交流。そして希望者がいれば明日早朝もネイチャーゲームをすると広報して、初日が終了した。

有志とのネイチャーゲーム

どのくらい集まるか分からないまま、6時に集合場所へ。疲れているのかASEAN青年はいない。しかし鳴門教育大学の学生さん数名が来られたので、施設の裏を流れる那賀川までの〈サイレントウォーク〉と〈フォールドポエム〉を実施した。

〈サイレントウォーク〉をしているうちに朝日が昇りはじめ、徐々に鮮やかになる植物の色を見つつ、河原に到着。〈フォールドポエム〉では川を渡る風がまだ涼しいことや鳶が飛ぶ様子などが詠まれていて、ひとつの詩を作る楽しさを味わってもらえたと思う。

朝食時、先程のネイチャーゲームについて話していると、「自分たちもやりたい」という声が上がった。そこで9時のプログラム開始まで、2回目を行うこととした。

インドネシアの青年3名も交え、コースを変えて〈サイレントウォーク〉。しかし「黙って歩くこと」と伝えたつもりが、彼らは道々よく声をあげる。そのつど何に驚いた（関心を持った）のか見に行き、「静かに」と言うのだが、「オッケー、オッケー」と言ったその後もまた声があがった。この時期に紅葉しているもみじや、川の流れ、飛ぶ鳥などに関心を持った様子である。楽しそうなのでそのまま河原まで続行することとした。

到着後、もうひとつゲームをしたいというので、今度は全員で〈パーティカルポエム〉をすることにした。このカードにも説明文・例文を英語で併記しておいたので、インドネシア青年にも分かってもらえた様だった。一応簡単な説明をして、各自じっくりと風景を楽しむ場所へ移動してもらった。

20分後、集合して発表。日本人参加者はひらがなで、インドネシア青年は英語で書いていた。そしてどれもちゃんと縦・横で意味がつながった“詩”になっていた。発表しつつ互いの詩をのぞき込み、全員で感嘆したり、ユーモアに笑ったり、「国際交流」という大きな目的はあったものの、それを意識しないで自然に話し合えた時間だった。

まとめ

二日目のプログラムを終了して解散をした後も、主催者とメールでやりとりをした。ASEAN青年は淡路島・徳島県に8日間滞在したプログラムだったが、その中でも「驚敷でのネイチャーゲームが楽しかった」との意見があったことを聞き、非常に嬉しかった。

このあと主催者の1人から依頼があり、高校で生徒対象のネイチャーゲームを行ったほか、参加者だった小学校の教師からはオープンスクールで児童・保護者対象のネイチャーゲーム教室を開催したいとの依頼があるなど、私にとっても、人のつながりを感じられた行事となった。当日参加してくださった3名のネイチャーゲームリーダーの方々（戸川さん、小林さん、野本さん）、及び企画運営にあたってくださった徳島県青年海外協力協会の常見さんほかスタッフの方々に感謝したい。

この合宿セミナーにおける ASEAN 青年との交流で、ネイチャーゲームでの国際交流について、大きな手応えを感じた。カードを使う場合には英文（だけでなく他の言語でも）を併記したものを用意するなど、少し工夫をすればちゃんと伝わった。

また、しばらくして参加者の感想をとじた冊子が送られてきたが、「山の中が良かった。自分のふるさとを思い出した」「お互いが知り合うプログラム、ネイチャーゲームが学びになった」「子どもに帰って遊べた」「教師として学校で使えるものが多くあった」などの感想があり、今回のプログラムにネイチャーゲームが入った意義は大きいと感じている。

今後もネイチャーゲームで何ができるか、手探りではあるがまずは実践しながら広げていきたいと思う。



〈はじめまして〉



〈コウモリとガ〉



〈バーティカルポエム〉



〈バーティカルポエム〉

参考：〈はじめまして〉カード

はじめまして Nice to meet you!

あなたのことについてきかせてください。 Please let me ask about you!

年 月 日 / 場所
/The place

わたしのなまえは
My name is ...

- ① い そだ なにか生きものを育てたことがありますか？
Have you ever raised any living thing?
その生きものは あいてのなまえは
It is ... Person's name is ...
_____ さん
- ④ もり なか た 森の中で食べたいものはありますか？
Is there any food you want to try in the forest?
それは あいてのなまえは
It is ... Person's name is ...
_____ さん

- ② もり なか どうぶつ 森の中で動物にであったことがありますか？
Have you ever saw animals in the forest?
その動物は あいてのなまえは
The animal is ... Person's name is ...
_____ さん
- ⑤ あなたはどこからきましたか？
Where are you from?
それは あいてのなまえは
The country is ... Person's name is ...
_____ さん

- ③ しぜん いちど いままでいったことのある自然で、もう一度
いきたいところがありますか？
*Is there any favorite place in the nature
you want to visit again?*
そこは あいてのなまえは
It is ... Person's name is ...
_____ さん
- ⑥ じまん あなたのふるさとの自慢はなんですか？
What is famous for in your country?
それは あいてのなまえは
It is ... Person's name is ...
_____ さん